



大宮西中学校は創立50周年を迎えます
～つないできた 愛 これからもずっと～

藤花だより

令和6年度11月号
令和6年10月31日
さいたま市立大宮西中学校
TEL048(624)4339
<https://omiyanishi-j.saitama-city.ed.jp>

「Pass me the salt (お塩を取ってください)」
～ボランティア精神をはぐくみ、地域を支える人材へ～

校長 森角 由希子

大宮西中学校は、生徒ひとり一人の志(希望)を支え、だれもが成長を実感できる笑顔(あい)あふれる学校づくりを目指しています。その行動目標として、地域行事への積極的な参加、ボランティア活動等を推進しています。私が最初に地域のごみゼロ運動に参加させていただいたとき、約100名近い生徒が集まったことに驚きました。

また、創立50周年記念事業の一環として行われた、学校のフェンスの塗装(塗魂ペインター様の御協力)や校内除草活動には、生徒や保護者の方が、ボランティアとしてたくさん集まってくださいました。これらの活動は、「式典に向けて学校を美しく整え、地域の皆さまをお迎えしましょう」とするニーズに対し、「解決しましょう」という思いが複数人で共有され、行動に表れた結果です。

自分たちの暮らす地域の課題を自ら解決していこう、みんなで励まし合いながら、地域の価値を高め合っていこう、と動くコミュニティは課題解決がしやすく、その結果暮らしやすさが高まるといった恩恵を受けやすいといわれています。27日の地域のクリーン作戦では、小さなお子さんを連れた家族がたくさん参加されていました。本校の生徒がボランティア活動に前向きに取り組んでいるのは、幼い頃から地域で様々な行事や取組が行われ、地域の大人と子どもたちが当たり前のように共に問題解決にあたってきた風土があるからだと思いました。

ボランティアは、英語で volunteer。その語源は、ラテン語の「volo(ヴォロ)自ら～する」や「voluntas(ヴォランタス)意思」にあると言われています。つまり、ボランティアは「やりたいことに対し自らの意志で行動すること」という意味が軸にある言葉のようです。(日本財団ボラセンより)自分一人であっても目の前にある社会的ニーズに気づいて自発的に行動すれば、それはもう立派なボランティアであるということです。

ボランティアを例える言葉の1つに「Pass me the salt (お塩を取ってください)」という表現があります。これは「お塩を渡してあげるくらい気軽に、気持ち良くできる行動がボランティアの始まりなんだよ」ということを表しているのだそうです。塩を取ってあげることに負担はないですし、その行いをしていれば、自分が困ったときも「取ってください」と言いやすくなる。これこそ「支え合い」の小さな種です。

日頃の生活の中で誰かの困り事に気づくことがあれば、それはもう社会との接点がある、ということです。大宮西中の生徒には、自発的に行動する小さな種を大切に育て、地域を支える人になってほしいと思っています。



【創立50周年 テーマ】